

★学校教育目標	○確かな学力 ○豊かな心 ○たくましい体	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）	『たしかな学力・ゆたかな心・たくましい体 ～強く、やさしく、かしく、笑顔で前向きに生き抜くひらやまっ子～』	【平山小学校のキーワード】 歴史・伝統への感謝と未来への希望 『4Ts: Thanks (感謝) Tradition (伝統) Try (挑戦) Technology (科学技術)』
【めざす児童・生徒像】	◆よく考え、表現し、いろいろな考えを知って新しい知恵を創造するひらやまっ子 ◆感謝の気持ちと真心をもって、進んで人のために行動できるひらやまっ子 ◆よく食べ、よく運動し、困難にも負けずに生き抜こうとするひらやまっ子	◆文部科学省 研究開発学校4年目で、最終年度である。子供たちが自立した人間として、他者と協働しながら、未来を生き抜いていけるように、6つの実践力(①自然の恵みを大切に ②命を大切に ③人を助ける ④ともに生きる ⑤防災に努める ⑥安全な社会をつくる)を育む「生きぬく科」のカリキュラムを完成する。
【めざす学校像】	◆笑顔とありがとうのあふれる元気な学校 ◆「生き抜く力」と「主体的、協働的、創造的に行動する態度」を育成する学校	◆『産学官共同プロジェクト 次世代型学びプロジェクト「ひの@平山小」』の最終年度及び、『Microsoft Showcase School 2016』として、大学や企業の支援を受け、最高のICT環境を、最大の学びの場としていく。具体的には、ICTを「多様な子供の可能性を最大限に伸ばし、主体性を育むツール」として活用する。これにより、必要な知識を身に付け、自ら課題を見つけ、解決するという新たな学びを通して、思考力、判断力、表現力や、主体性をもって多様な人々と協働する態度などを身に付ける。
【めざす教師像】	◆常に明るい笑顔で、未来に生きる子どもたちの力を最大限に伸ばそうと前向きに挑戦する教師 ◆一人一人が分掌のリーダー、フォロワーになり、チーム力で学校を創っていく教師 ◆コミュニティ・スクールの一員として、保護者・地域の方と一緒に、子供たちの力を育むために連携を図っていく教師	◆第5期コミュニティ・スクールとして、平成29年度に新校平山小学校開校10周年を迎えるに当たり、地域とのかかわりをより一層大切にしていける。具体的には、平山季重まつりの会場、平山中地区育成会の防災キャンプ会場になることで、子供たちが地域と積極的にかかわる機会を多く設ける。これにより、地域とともに、未来のまちの担い手となる子供たちを育てていく。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標		
A 子供	自ら課題を発見し、考え、判断し、よりよく解決する確かな学力の育成 (第2次日野市学校教育基本構想 基本方針1)	知識や技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果を表現する力や、主体性をもち、多様な人々と協働しつつ学習していく態度を育てる	ICTを活用した、児童主体のディープ・アクティブ・ラーニングを、学期に3回以上実施する。	4 ICTを活用したディープ・アクティブ・ラーニングを学期に3回以上実施した教員が100%	4 アンケートから主体的・創造的な学習に取り組むことができたと答えた児童が90%	児童館では、子供同士で活発に意見を交わしている様子が見られる。しかし、話し合いが深まらないことがあるのは、話し合いの内容に課題があったり、話し合いの進め方がうまくなかったりして、議論にならないのではないかと、互いのいところを認め合いながら深めるには、友達の見聞しを聞き入れる寛容な雰囲気が必要ではないか、学校では、自分の考えと友達の考えから、新しい考えを生み出せるような指導が望まれる。	ICTを活用したディープ・アクティブ・ラーニングを学期に3回以上実施した教員は、90%であった。日頃からICTを活用した授業を学年で共有したり、全体で実践を紹介し合ってきた成果だと思われる。児童の意識では、昨年度の課題であった「友達の考えや意見に対して、質問したりアドバイスをしたりしている」は今年度も他の項目と比較すると低い(66%)が、前年度より5%高くなっている。このことから、本校が目指している児童主体のディープ・アクティブ・ラーニングの実践の成果が着実に表れていると考えられる。来年度は、これまでの取組を整理し、次期学習指導要領改訂を見据えた授業改善を目指していく。具体的には、少人数で話し合う機会を多く設け、自分の考えと友達の考えから、新しい考えを生み出せるような学習環境を整える。
				3 ICTを活用したディープ・アクティブ・ラーニングを3学期に3回以上実施した教員が90%	3 アンケートから主体的・創造的な学習に取り組むことができた児童が80%		
				2 ICTを活用したディープ・アクティブ・ラーニングを2学期に3回以上実施した教員が80%	2 アンケートから主体的・創造的な学習に取り組むことができた児童が70%		
				1 ICTを活用したディープ・アクティブ・ラーニングを1学期に3回以上実施した教員が70%	1 アンケートから主体的・創造的な学習に取り組むことができた児童が70%未満		
B 子供	たくましく生きるための健康・安全や体力の育成 (第2次日野市学校教育基本構想 基本方針1)	健康で幸せな生涯を送るために体力の向上を図る。	体力の向上を図るために、体育の授業以外にも、週2回の「パワーアップタイム」を設け、全校で時期ごとに重点取組を行う。	4 パワーアップタイムの取組を行った教員が100%	4 秋の体力測定の結果(学年平均)が、春の結果を上回った学年が7学年	今年度は、昨年度の課題であった持久力・柔軟性について、持久走やラジオ体操、短縄を、パワーアップタイムを中心に継続的に取り組んだ。その結果、体力測定(シャトルラン・長座体前屈)では、ほぼ全学年で春の結果を上回ることができた。しかしながら、体力測定を全国と比較すると、全体的に体力の低さが目立ち、特に、「投げる力」や「握力」に課題が見られる。次年度は、年間を通して継続的に「走力」「柔軟力」「握力」「投げる力」をつけるための取り組みを行う。また、「握力」や「投げる力」を高めるため、関節の可動域を広げるストレッチを開発し、取り組んでいく。	
				3 パワーアップタイムの取組を行った教員が90%	3 秋の体力測定の結果(学年平均)が、春の結果を上回った学年が6学年		
				2 パワーアップタイムの取組を行った教員が80%	2 秋の体力測定の結果(学年平均)が、春の結果を上回った学年が5学年		
				1 パワーアップタイムの取組を行った教員が70%	1 秋の体力測定の結果(学年平均)が、春の結果を上回った学年が4学年		
C 教師	次代をつくる特色ある学校づくりと魅力ある学級・授業のデザイン (第2次日野市学校教育基本構想 基本方針2)	教員同士の学び合いを通して相互研鑽することで、授業力や専門性を高める。	研究開発学校として「生きぬく科」の実践を進めながら、研究開発学校以外でも実践できるような1時間単位の「生きぬく科ミニミニ授業セット」を各学年、最低3つ以上開発する。	4 「生きぬく科ミニミニ授業セット」を全学年が4つ以上開発	4 「生きぬく科」で身に付けたい実践力について、自分の行動に変化があったと答えた児童の割合が90%	4年生が行った避難所開設の啓発は成果があった。育成会の夏のキャンプでも防災意識が高かった。突然の大雨のときに、自分で判断して近くのお店に避難し、状況を説明して家に連絡までしてもらった3年生がいた。生きぬく科の成果の表れだと考えられる。また、その大雨で、中学1年生がラインを活用して大雨の状況を互いに伝えた。自分たちで情報ネットワークを作ったことに感動した。研究開発校としての防災安全教育の研究は今年度までということだが、来年度も継続的に生きぬく科の内容の指導を続けて実践力を高めてほしい。	
				3 「生きぬく科ミニミニ授業セット」を6学年が4つ以上開発	3 「生きぬく科」で身に付けたい実践力について、自分の行動に変化があったと答えた児童の割合が80%		
				2 「生きぬく科ミニミニ授業セット」を5学年が4つ以上開発	2 「生きぬく科」で身に付けたい実践力について、自分の行動に変化があったと答えた児童の割合が70%		
				1 「生きぬく科ミニミニ授業セット」を全学年が3つ開発	1 「生きぬく科」で身に付けたい実践力について、自分の行動に変化があったと答えた児童の割合が60%		
D 学校 家庭 地域 社会	学習・生活習慣の確立と家庭の受容力・教育力の向上 (第2次日野市学校教育基本構想 基本方針3)	家庭との連携を図りながら、学校での基本的な生活習慣を確立する。	キラキラ運動(①あいさつ・返事・ありがとう ②時間を守る ③右がわをしずかに歩く ④聞き上手あいさつ)の4項目を、年間を通して、家庭や地域と連携を図りながら、毎週金曜日に振り返りを行い、指導を徹底する。また、27年度の分析において重点的に改善すべき課題とした「忘れ物」と「整理整頓」については、学級ごとに実態に即した方策を工夫する。	4 「キラキラ運動」4項目について指導し、週1回の振り返りをした教員が100%	4 4項目全ての目標を達成できて、銀カードや金カードに進めた児童が80%	整理整頓と忘れ物をしないことは、中学校では大きな課題となっている。学校だけの問題ではなく、家庭の協力を得ることが大切である。児童館では、整理整頓はできているが、忘れ物が多い。ひのちっでも同様である。保護者自身が忙しいことで、親が整理整頓をできていなかったり、子供の持ち物に気遣いをしていないからというのではない。整理整頓と忘れ物をしないことについてはしっかりと身に付くように家庭との連携を図り、家庭と子供の意識を高めさせるよう指導に取り組んでほしい。	
				3 「キラキラ運動」4項目について指導し、週1回の振り返りをした教員が90%	3 4項目全ての目標を達成できて、銀カードや金カードに進めた児童が70%		
				2 「キラキラ運動」4項目について指導し、週1回の振り返りをした教員が80%	2 4項目全ての目標を達成できて、銀カードや金カードに進めた児童が60%		
				1 「キラキラ運動」4項目について指導し、週1回の振り返りをした教員が70%	1 4項目全ての目標を達成できて、銀カードや金カードに進めた児童が50%		
E 学校 家庭 地域 社会	グローバルな視野をもったつながりによる教育 (第2次日野市学校教育基本構想 基本方針3)	挨拶・笑顔のあふれた明るい学校創りを目指す。	来校者(保護者等)、教員、児童は、互いに明るい挨拶をし合う「やまびこ運動」を行う。	4 あいさつの「やまびこ運動」を心がけた教員が100%	4 保護者・地域への挨拶状況アンケートで、児童ができていと答えた割合が90%	ひのちっでは、しつこくあいさつをしても返さない子がいて、なぜあいさつをしないのかを聞くと、「先生も親もしないから」という答えだ。幼稚園では、先生と親があいさつをする姿を園児が毎日見ているためか、自分からあいさつをしようと呼びかけると、素直にできる。自分からあいさつができるようにPTAの方や保護者にも呼びかけていく必要がある。	
				3 あいさつの「やまびこ運動」を心がけた教員が90%	3 保護者・地域への挨拶状況アンケートで、児童ができていと答えた割合が80%		
				2 あいさつの「やまびこ運動」を心がけた教員が80%	2 保護者・地域への挨拶状況アンケートで、児童ができていと答えた割合が70%		
				1 あいさつの「やまびこ運動」を心がけた教員が70%	1 保護者・地域への挨拶状況アンケートで、児童ができていと答えた割合が60%		